

平成二十五年 度

東京家政大学附属女子中学校

入 学 試 験 問 題 第 一 回 〔 国 語 〕

〔 注 意 事 項 〕

- ・ 問題 は、一 ペー ジ か ら 八 ペー ジ ま で あ り ま す。
- ・ 解 答 は す べ て 解 答 用 紙 の 定 め ら れ た 欄 に 記 入 す る こ と。

## 1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二学期ははじめに行われるのは、学級役員決めだ。新学期になって、クラスの役員も新しくなる。僕はとりあえず引き続き保健体育委員になった。

学級委員も難航するかと思っただけど、立候補と推薦でタナケンと東さんに決まりそうだった。タナケンはお調子者だけどもードメーカーだし、東さんはテキパキと仕切るのが上手だからちょうどいいだろう。

ところが、いざ決定となったときに、上杉が「あの、僕もやってみようと思うんだけど」と手を挙げた。みんなは困惑した。<sup>①</sup> タイミングの悪さに「えー」と言う声も聞こえた。

確かに上杉は成績もいいし、真面目で一目おかれている部分はある。だけど、学級委員という器ではない。嫌われているわけではないけど、マイペースぶりにみんなに面倒がられることもあった。

「上杉君もやるって言ってくれてるけど、タナケンはどうする？」

あつさり却下すればいいのに、担任の岩村は間抜けに言った。

「いやあ、どうしようかな」

タナケンはどう言っているのかわからず、頭をかいいた。

「もういいじゃん。みんなに聞いてみたって、結局タナケンになるよ。あきらめろよ。な」

本木が僕のほうを向いて言った。<sup>②</sup> いかにも、僕の言いそうな台詞だからだ。

「でも、せっかくだし、今回はがんばってやってみようと思うんだ」

勉強はできても空気が読めない上杉は、一生懸命主張した。

「相談しなおすつても時間の無駄だし、上杉が情けない思いするだけなのにな」

本木が何人かの男子と言いつつ合った。

本木の言うとおりだ。どちらにするか決めるのには、多数決くらいしか方法がない。タナケンは男子にも女子にも人気がある。多数決をしても、結局上杉が惨めな思いをするだけだ。だけど、本木を見ていると、<sup>③</sup> バルコニーから自分を眺めているような、ざわざわした心地がした。

「早い者勝ちってことでいいよな」

「そうだそうだ。上杉は書記でもやればいいじゃん」

注口 H R が長引くのを避けた連中が、どんどん本木に同調した。

「神田、もういいじゃんね」

本木が僕に振って、みんなも僕のほうを見た。

そっか。このクラスで僕は、こういう状況を切りあげる役割になっていたんだ。面倒なことをすばと切ってしまう係。知らず知らずそういうことを僕はしてきたんだ。<sup>④</sup> それはたぶん喜ぶべきことじゃない。

「おい、神田聞いているの？ 何とか言っちゃってよ」

珍しく戸惑っている僕を、本木は急かした。僕の発言に威力があるわけじゃないし、僕の言葉が何

かを決めるわけじゃない。だから、気にする必要はない。そう自分に言い聞かせてみた。だけど、頭の中には「<sup>⑤</sup>加害者になっちゃだめだ」と言う、悲痛な<sup>注ハ</sup>優ちゃんの顔が浮かんでいた。

注ハ 優ちゃん＝「僕」の父親。

「あー。もう決まんないのかよ。どっちもやりたいって言うなら、多数決。もうこの際、じゃんけんやあみだでもいいか。よし、先生、どっちがいい？」

僕が黙っていると、本木が仕切り出した。

多数決で現実を見せるのは酷だし、<sup>⑥</sup>じゃんけんやくじで万が一上杉が学級委員になりでもしたら、逆にもっと気の毒なことになる。

「あのさ、上杉頼むよ」

僕は立ち上がると、上杉の席まで進み出た。

「ん？」

上杉は不思議そうな顔をこちらに向けた。

「学級委員。今回はタナケンにやらせてやってくれよう。タナケン、中学に入学したときからずっと、学級委員をやりたいやんって毎日言ってたんだ。もう夜うなされるくらい」

僕は上杉のまん前に立って、神妙に頭を下げて見せた。

「あ、ああ、そうなんだ」

上杉は突然の僕の行動に驚いていた。

「学級委員になるのは、小学校一年のときからのタナケンの夢なんだ。苦節十年、毎晩毎晩祈ってるんだよ。上杉、変に学級委員になっちゃったら、タナケンに化けて出られるかも。うん、絶対夜、枕元に立たれるな。あいつ執念深いから怖いぜ。今回は譲ってやってくれ。頼む」

僕が上杉の手を取ると、みんな爆笑した。上杉は手まで握られて、頭まで下げられて、おかしな脅し文句まで混ぜられて、少々面食らってはいたけど、

「ああ、まあ、だったら、いいかな」

とうなずいてくれた。ここまでされたら、そうとしか言いようがないだろう。少し申し訳ない気もしたが、仕方ない。僕はありがたうの意味もこめて、もう一度上杉の手を握った。

タナケンは「悪い」と僕に目で合図を送ると、「サンキュー。上杉。俺、学級委員になったら、上杉をひいきしまくるぜえ。お前が掃除サボっても見逃しちゃう」と、言った。

瀬尾まいこ「僕の明日を照らして」より

【一部に表記の変更があります。】

問一——線①「タイミングの悪さ」とありますが、こういう場面でタイミングをはずしてしまう上杉のことを、「僕」はどんな性格だと思っていますか。文中から五字でぬき出しなさい。

問二——線②「いかにも、僕の言いそうな台詞だからだ」とありますが、いつもの「僕」は、このような台詞を言うことで、どういう役割を果たしていたのですか。解答欄の言い方にあうように、十五字以上、二十字以内でぬき出しなさい。

問三——線③「バルコニーから自分を眺めているような、ざわざわした心地がした」とありますが、ここからわかる「僕」の様子として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 上杉を責める本木と今までの自分が似ていることに気づき、罪悪感をいだいている。

イ 上杉がみんなから責められていることを、まるで自分のことのようにつらく感じている。

ウ クラスで自分だけがこの議論に集中できないことに対し、申し訳なさを感じている。

エ 本木を中心にクラスのみんなが盛り上がっているということに、あせっている。

問四——線④「それはたぶん喜ぶべきことじゃない」とありますが、「僕」がこのように感じたのはどういうことに気付いたからです。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が今まで周囲と異なる意見を持つ人たちと向き合ってきたこと。

イ 自分のこれまでの発言でクラス内のムードを一変させてきたこと。

ウ 今まで自分の意見を言わず、常にほかの人の考えに同調してきたこと。

エ それまで自分がクラスの問題に関わろうとしないで、距離を置いてきたこと。

問五——線⑤「加害者になっちゃだめだ」とありますが、「僕」が発言することで、どうして加害者になるのですか。解答欄の言い方にあうように、三十字以内で答えなさい。

問六——線⑥「じゃんけんやくじで万が一上杉が学級委員になりでもしたら、逆にもっと気の毒なことになる」とありますが、「僕」はなぜこのように思うのですか。解答欄の言い方にあうように、三十五字以内で答えなさい。【句読点を含む】

問七 この出来事を通じて主人公が成長したことがわかる部分を一続きの二文で探し、最初と最後の五字で答えなさい。【句読点を含む】

問八 本文中から読み取れるタナケンの人物像として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 正義感が強く、自信を持ってクラスを引っ張っていくことができる、リーダーシップのある人物。

イ　いい加減で優柔不斷に見えるが、本当は情に厚く、人が困っているとほうっておけない人物。

ウ　持ち前のユーモアで場をなごませることができる一方、人の氣づかいに氣づくこともできる人物。

工調子がよくて自分勝手なところもあるが、素直で元気があり、どこかにくめないところがある人物。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

最近、ツキノワグマを語るときに、かならずつぎのようなことがいわれる。

— 森林の乱開發で、ヒノキやカラマツなどの針葉樹林がひろがりすぎてしまった。針葉樹を植林して、実のなる植物が減ったから、たべるものがなくてツキノワグマは人里近くへおりてきたのだ」といふ説だ。

こういう話を、いきなり①うのみにしてしまつてはいけない、と思う。

ニホンカモシカやニホンジカ、イノシシ、ニホンザルが、ここ四〇年ほどのあいだに、かくじつに増えてきている。これに対して、ツキノワグマだけが減少しつづけている、とは思えないからだ。

写真家としてフィールドで、この四〇年間を体験してきていると、ツキノワグマに遭遇することは、かくじつに増えてきている。四〇年前と今日では、ツキノワグマと出会うことは桁けたちがいにおおしい、生息痕跡せいしきんせきも、よくみる。それも、山奥やまおくから人里まで、ツキノワグマの痕跡は、まんべんなくひろがっている。

② このような現象は、ニホンカモシカでも肌はだで感じてきたことである。

長野県を例にとるならば、一九六〇年代前半のころまでは、ニホンカモシカは絶滅寸前といわれていた。マスコミも一般大衆も、おおくの人が、それを信じていた。そして、一九六〇年代後半には、国有林が大伐採され、それにつづくように、奥地の民有林などにも、カラマツなどの針葉樹が大量に植えられていった。

ちようど、このころから、ニホンカモシカが随所<sup>ずいしょ</sup>で目撃されるようになってきた。幻<sup>まほう</sup>といわれていたニホンカモシカが、だれにでも目撃できるようになったから、アマチュアカメラマンが動物写真をさいしよに学ぶときの、<sup>⑥</sup>格好<sup>かくこう</sup>のモデルにもなるくらいだった。そして、一九七〇年代後半には、人里<sup>ひと</sup>へもニホンカモシカはどんどん出現して、ときには植林地で食害をおこすまでになった。

それをみて、一部の学者は「奥山を伐採したから、カモシカはおわれて、里山までおりてきた」という説をうちだした。しかし、<sup>③</sup>伐採したことによって、ニホンカモシカが増えたから、あふれたものが里山まで進出してきたのだ」という学者もいた。ふたつの意見を、いまとなって検証すれば、後者の意見が正しかった。

国有林などを何百、何千ヘクタールと注イかいばつ皆伐してしまえば、それまで土中にねむっていた樹木や草の種子が、いちどに芽ぶいてくる。そして、裸になった大地に、新しい森をつくりあげようと、植物たちは、いつせいに㉞キョウソウをスタートさせるから、草食動物のニホンカモシカには「植物レストラン」が、あちらこちらにできあがった状態となる。これらの植物レストランで、ニホンカモシカたちは居ながらに食事をして、どんどん、そのかずを増やしていく。

人間の手による森林の皆伐を、カモシカたちはある意味では、よろこんでいたのだった。そして四〇年たったいま、これらの植林地では、なおも樹木がその一生をまっとうすべく、生育中である。しかも、植林はしたものの、そのごの手入れはまったくなされていないから、樹木たちは自然そのも

ので、自由に<sup>注ロ</sup>繁茂<sup>はんも</sup>しつづけている。

こうした伐採と植林の影響を<sup>①</sup>ハイケイに、ニホンカモシカもイノシシも、そしてニホンザルも、かくじつに増えてきた。中央アルプスのニホンザルなんて、四〇年ほど前（一九六〇年代後半）までは、ひとつの群れが四〇頭前後だった。それが今日では、一〇〇頭以上に、群れそのものの個体数が増えている。そして、その群れがさらに分裂しながら、農作物などを荒らしまわっているのが現状なのだ。

クマも、例外ではないのである。

長野県などは、植林<sup>②</sup>メンセキのおよそ九〇パーセントをカラマツ林にした。それらを手入れしないまま、四〇年間も放置すれば、植林地内の植物群だって多種多様になってとうぜんだ。果実がみのるヤマブドウやマツブサ、サルナシだって、場所によってはおどろくほどに繁茂している。広大なカラマツ林の<sup>注ハ</sup>林床部<sup>りんしょうぶ</sup>には、季節によってキイチゴ類をはじめ、<sup>注ニ</sup>液果<sup>えきくわ</sup>もたくさんある。そして、土中には、アリやクロスズメバチの巣も、たくさんみられる。

これらのものは、みんな、ツキノワグマの大好物だ。

クマは、ドングリやクリなどの木の実だけをたべているわけではない。クマは、じつにいろいろなものをたべる。カラマツ林にしまったことが、クマの生活に、すべてマイナスになっているとは思えない。なによりも、カラマツ林は広大なメンセキを占めている。そこにあるクマの食糧<sup>しよく</sup>となるものを、かぞえあげてみることも必要ではないだろうか。

ニホンジカやニホンカモシカ、イノシシは、山野の林床部を生活の場としながら増えつづけているが、ニホンザルは、地上から樹上までの森の空間を、立体的に利用しながら増えてきた。ほかの動物たちは、のきなみ増えているのに、ニホンザルとおなじように、<sup>④</sup>森を立体的につかうツキノワグマだけが、減少しているということは考えられないことだからである。

ツキノワグマの増加の動きは、カモシカがいつせいに増えてきた時期をボクはみてきただけに、<sup>⑤</sup>それと似た動きをしていると思う。植林して三〇〜四〇年がたち、木が成長して森を形成しはじめたので、カモシカからおかれてクマの活動期がやってきたのだ、と考えるべきだろう。

宮崎学「ツキノワグマ」より

【一部に表記の変更があります。】

問一 次のうち、本文中でツキノワグマの食べ物としてあげられていないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 果実がみのるヤマブドウやマツブサ、サルナシ  
イ ヒノキやカラマツなどの針葉樹  
ウ アリやクロスズメバチの巣  
エ ドングリやクリなどの木の実

注ロ 繁茂＝草木が生い茂ること

注ハ 林床部＝林の地面のこと

注ニ 液果＝ミカン・ブドウなどのような果汁を多く含む果実のこと

問二 線①「うのみにしてしまつてはいけない」とは、どういうことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア そのまま信じてはいけない。  
イ 他の人に広めてはいけない。  
ウ 本音が確かめてはいけない。  
エ 内緒<sup>ないしょ</sup>にしているといけない。

問三 線②「このような現象」とは、どのような現象ですか。二つに分けて、解答欄の言い方にあうように、それぞれ二十字以内で答えなさい。

問四 線③「伐採したことによって、ニホンカモシカが増えた」について、あとの問いに答えなさい。

- 1 伐採するとニホンカモシカが増えるのは、どういうことが起こったからですか。解答欄の言い方にあうように、三十字以上、三十五字以内で採し、最初と最後の五字で答えなさい。【句読点を含む】  
2 1の状態を本文中では何と表現していますか。十字以内でぬき出しなさい。

問五 線④「森を立体的につかう」とは、森をどう使うことですか。本文中の言葉を用いて、解答欄の言い方にあうように十五字以内で答えなさい。

問六 本文を通じて、筆者はツキノワグマが人里に多く見られるようになったのはどういったことが理由であると考えていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア すんでいた山が伐採され、居場所を追われて人間のすむところの近くまで来たこと。  
イ 山にクマの食料となるものが増え、ツキノワグマ自体の数が多くなったこと。  
ウ 人間のせいで山からクマのエサになるものがどんどんなくなつていったこと。  
エ ニホンカモシカなど他の動物が減ったぶん、数を増やしてきたこと。

問七 線⑤「それ」とは、どういうことを指していますか。文中の語句を用いて、十字で答えなさい。

問八 線⑥・⑦の漢字はひらがなに、⑧・⑨・⑩のカタカナは漢字に直しなさい。

- ⑥ 大衆 ⑦ 格好  
⑧ キョウソウ ⑨ ハイケイ ⑩ メンセキ

次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の1～5の熟語の①類義語と②対義語を、それぞれあとの□から選び、漢字に直して答えなさい。

- 1 平等                      2 賛成                      3 手段  
4 短所                      5 進歩

|      |     |       |      |      |
|------|-----|-------|------|------|
| ホウホウ | サベツ | チヨウシヨ | ハンタイ | ケツテン |
| コウヘイ | タイホ | ドウイ   | ハツタツ | モクテキ |

問二 次の1～5の説明にあてはまる文学作品の名前をAの中から、その作者名をBの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 昭和時代に湯沢温泉を舞台に描かれた小説で、「国境の長いトンネルを抜けると…」という冒頭部分がある。作者は日本人で初のノーベル文学賞を受賞した。
- 平安時代に書かれた随筆で、「春はあけぼの。」という冒頭部分がある。かわいらしいものや趣ぶかいものなど、「くもの」を集めた章が多いのが特徴である。
- 江戸時代に発表された紀行文で、作者の江戸から奥羽・北陸をへて大垣に至るまでの旅の様子を、俳句を入れながらまとめたもの。「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」などの句で知られる。
- 平安時代に成立し、「もののはれの文学」ともいわれる作品。ある貴族男性の一生を中心に、当時の宮廷文化をえがいている。
- 明治時代に雑誌の連載小説として発表された作品で、英語教師に飼われている動物の視点から書かれた小説。冒頭の一文がそのままタイトルになっている。

A

- ア 枕草子                      イ 雪国                      ウ おくのほそ道  
エ 源氏物語                      オ 吾輩は猫である

B

- 1 夏目漱石                      2 清少納言                      3 松尾芭蕉  
4 紫式部                      5 川端康成

|    |   |    |   |
|----|---|----|---|
| 問二 |   | 問一 |   |
| 1  |   | 1  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 2  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 3  |   | 2  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 3  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 4  |   | 3  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 4  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |
| 5  |   |    |   |
| B  | A |    |   |
|    |   |    |   |
| 5  |   | 5  |   |
| B  | A | ②  | ① |
|    |   |    |   |